

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和5年1月12日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを○で囲むこと	広域連携DMO・ <input checked="" type="checkbox"/> 地域連携DMO・地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	公益社団法人 石川県観光連盟	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	石川県全域	
所在地	石川県金沢市	
設立時期	平成元年6月14日	
職員数	49人（出向等36人）	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 庄田 正一 （出身組織名） （株）金沢ニューグランドホテル	金沢市の（株）金沢ニューグランドホテル代表取締役社長。平成27年6月に石川県観光連盟の副理事長に就任。金沢ホテル懇話会会長として、広域交通網を活用した旅行商品の造成や欧米等からの海外誘客に取り組みとともに、（一社）金沢市観光協会理事をはじめ、日本ホテル協会、金沢商工会議所、北陸経済連合会などの要職を歴任し、県の観光振興のけん引役として活躍。
総括責任者	（氏名） 山下 活博「専従」 （出身組織名） 石川県	平成28年4月から2年にわたり、石川県観光戦略推進部観光企画課長として観光行政に従事。その際に培った観光に対する深い見識や、多様な人的ネットワークを活かし、令和4年6月に石川県観光連盟の副理事長兼専務理事に就任。
事業推進の責任者	（氏名） 山本 洸大 （出身組織名） 石川県	県職員として、幅広い分野での経験を持ち、令和4年4月に、観光に関する総合的な戦略の企画立案及び推進を担う石川県観光戦略推進部観光企画課長に就任。
データ収集・分析等の専門人材（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 米谷 慎吾「専従」 （出身組織名） 西日本旅客鉄道（株）	JR金沢支社在籍時は、北陸三県への誘客や北陸DCを担当し、令和元年12月に金沢駅係長に就任。その後、令和3年6月に石川県観光連盟の事務局長に就任。
財務責任者 （CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 宮本 達矢 （出身組織名） 石川県	県職員として、企画調整業務や予算業務を経験した後、平成29年4月に石川県観光戦略推進部観光企画課へ異動し、平成30年4月に石川県観光連盟の事務局次長に就任。
旅行商品企画・造成部門の責任者（専門人材）	（氏名） 佐成 博文「専従」 （出身組織名） （株）日本旅行	JRの旅行業部門などを経て、（株）日本旅行へ転籍後、営業スタッフ、JRグループ会社での駅営業スタッフ、北陸営業部の後、令和4年4月に石川県観光連盟の「旅行商品企画マネージャー」に就任。

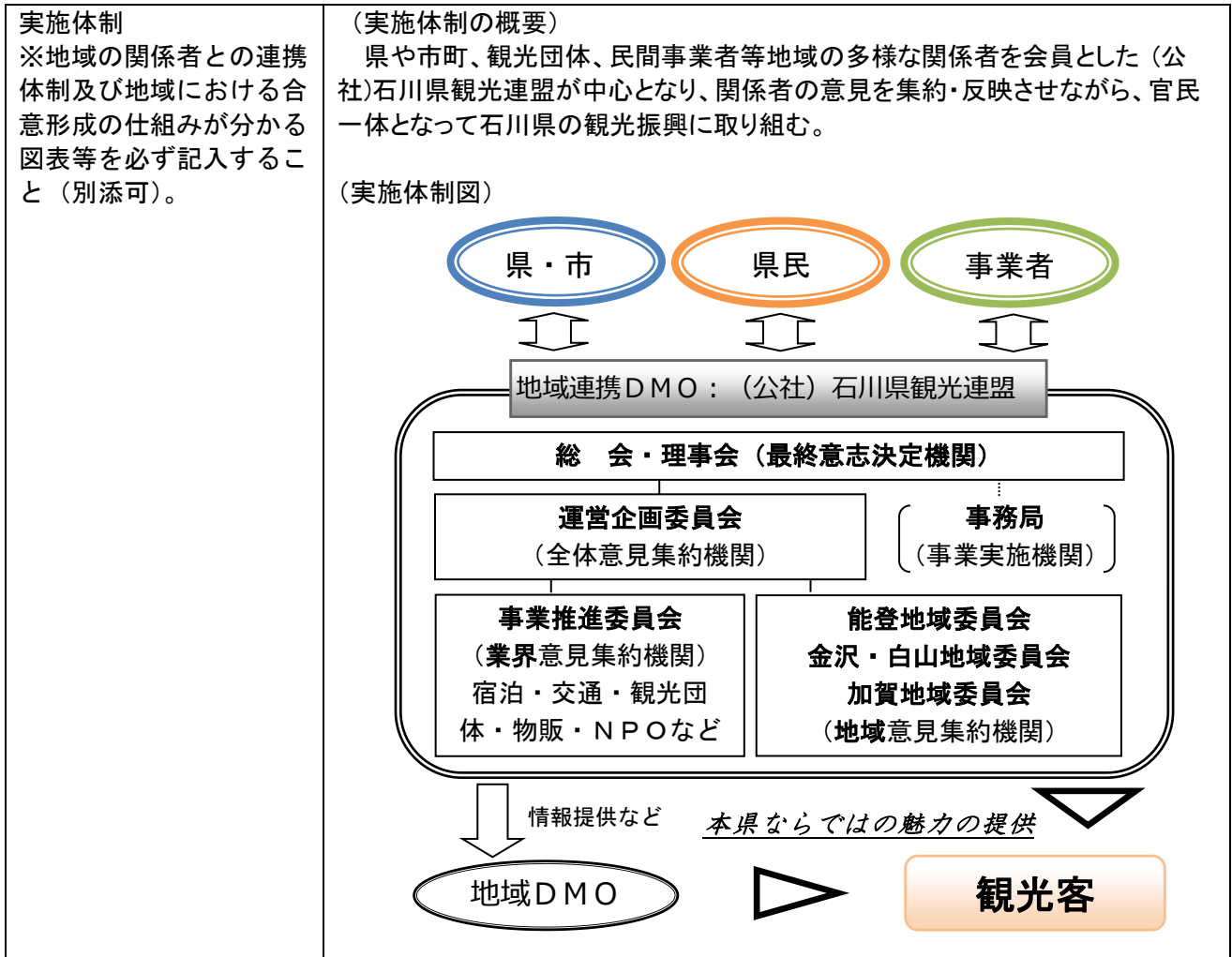
(別添) 様式 1

<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県観光戦略推進部(観光施策の推進、財政支援、人的支援等) ・ // 企画振興部(地域づくり、新幹線・空港利活用、二次交通対策) ・ // 県民文化スポーツ部(文化観光及びスポーツ振興) ・ // 健康福祉部(施設衛生管理) ・ // 生活環境部(里山利活用) ・ // 商工労働部(クルーズ船誘致、伝統工芸利活用、人材確保) ・ // 農林水産部(里山振興、特産品開発・PR、森林保全・利活用) ・ // 土木部(兼六園管理、道路標識・サイクリングルート等整備、景観対策) ・ // 教育委員会(文化観光) <p>・石川県内各市町観光担当部局(観光資源の掘り起こし等)</p>
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>【観光事業者・関係団体】(観光資源の掘り起こしと磨き上げ、PR等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内市町観光協会・物産協会、県内各温泉旅館協同組合、加賀地域連携推進会議(オール加賀会議)、金沢ホテル懇話会、(一社)能登半島広域観光協会、石川県旅館ホテル生活衛生同業組合、(一社)日本旅行業協会(JATA)中部支部石川地区、(一社)全国旅行業協会(ANTA)石川県支部、ほっと石川観光ボランティアガイド連絡協議会、(一社)石川県物産協会、加賀温泉郷協議会 等 <p>【交通事業者・関係団体】(県内への送客、観光列車運行、二次交通の充実等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本航空(株)、全日本空輸(株)、西日本旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、中日本高速道路(株)、IRいしかわ鉄道(株)、のと鉄道(株)、北陸鉄道(株)、(公社)石川県バス協会、(一社)石川県タクシー協会 等
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件)① (概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県観光連盟は公益社団法人であり、法人としての重要な事案については「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づく、総会(年1回)及び理事会(年3回程度)において意思決定を行っている。 ・会員には、県や市町、観光団体、民間事業者等地域の多様な関係者を有し、さらに、能登、金沢・白山、加賀の各地域ごとに地域委員会(年1回)を設けて、地域の意見を集約するとともに、事業推進委員会(年1回)を設けて、行政や観光関連団体等、業界の意見を集約している。 ・これらの委員会での意見を運営企画委員会(年1回)で集約し、それを踏まえ、理事会や総会において、法人としての意志決定を行っており、地域、業界の意見が本連盟の意思決定に関わる仕組みが機能している。 <p style="text-align: center;">事業推進委員会…年1回開催。業界の意見を集約する機関 地域委員会 …年1回開催。各地域(能登、金沢・白山、加賀)ごとに地域の意見を集約する機関 運営企画委員会…年1回開催。事業推進委員会及び地域委員会の意見を集約する機関</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>一人ひとりが「おもてなし」の心を持ち、本県が「おもてなし」の心に満ち溢れた魅力の高い観光地となるよう、平成22年度から地域住民向けに県内各地の公民館等で「おもてなし」について考えるきっかけづくりとして「おもてなし講座」(参加無料)を開催している。</p>

(別添) 様式 1

<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <p><観光振興事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信 総合パンフレット「ほっと石川まるごと観光マップ」の作成・配布、 県観光情報ホームページ「ほっと石川旅ねっと」の運営 ・ 旅行会社に対する旅行商品造成へのアプローチ 市町等が発掘した観光素材を磨き上げる「いしかわ旅行商品プロモーション会議」の開催 ・ 観光案内所の運営 ・ 宿泊施設等にアンケートはがきを設置し、観光客の意見を関係者で共有して改善につなげる取組の実施 ・ 観光物産展への出展 ・ 次代を担う人材を育成する「いしかわ観光創造塾」の開催 <p><観光キャンペーン事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信 大手旅行予約サイトやインターネット広告を活用したPR ・ 東日本(首都圏・東北等)からの誘客促進 鉄道事業者、グループ旅行会社と連携した誘客キャンペーン ・ 西日本(関西圏・中京圏等)からの誘客促進 鉄道事業者、グループ旅行会社及び JAF と連携した誘客キャンペーン ・ JRタイアップ北陸三県共同による広域キャンペーン 「日本の美は、北陸にあり。」キャンペーン(4月～11月)や「ジャパニーズビューティ北陸キャンペーン」(12月～3月)の展開 ・ 県内各地の観光魅力アップ事業 各地域でのイベント開催支援 <p><海外誘客促進事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信 海外メディアの招聘、多言語パンフレットの作成・配布、メルマガ配信 ・ 海外MICEの誘致促進 東京都と連携した欧州最大規模のMICE見本市への出展、誘致に影響力のあるキーパーソンの招聘 ・ 富裕層の誘客 京都市等と連携した富裕層見本市への出展等 ・ メディアと連携した魅力発信 ・ 外国人旅行者のニーズに対応した観光素材の磨き上げ <p>(定量的な評価)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決算額(千円)</td> <td>454,902</td> <td>467,079</td> <td>370,305</td> <td>428,735</td> </tr> <tr> <td>会員数(団体)</td> <td>187</td> <td>191</td> <td>188</td> <td>182</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2	R3	決算額(千円)	454,902	467,079	370,305	428,735	会員数(団体)	187	191	188	182
	H30	R1	R2	R3												
決算額(千円)	454,902	467,079	370,305	428,735												
会員数(団体)	187	191	188	182												

(別添) 様式 1



2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

11市8町からなる計19市町
 県庁所在地：金沢市

(別添) 様式 1

【区域設定の考え方】

石川県は大きく分けて、能登・金沢・白山・加賀の4地域に分類され、各地域がそれぞれ異なった観光資源を有しており、これらを有機的につなげてPRすることにより、魅力的な観光地として発信できるとの考えから、本県全体を対象区域とした。

【観光客の実態等】

令和3年の石川県全体の観光入り込み客数については、1,230万7千人、令和元年比49.4%と、コロナ前から大幅な減少となっており、年間を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受けた結果、前年比でも92.9%となった。

また、発地別では、県外については、前年比90.3%と減少した一方で、県内については、県民向けの県内旅行応援事業の実施等により、前年比96.1%と比較的減少幅が抑えられた。

地域別の観光入り込み客数については、金沢地域で前年比94.8%、加賀地域で前年比86.2%、白山地域で前年比106.7%、能登地域で前年比92.4%となった。

また、外国人の宿泊者数については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う水際対策として、年間を通して、入国が制限されていたことから、トータルでは、8千人泊、前年比で8.1%となった。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

<能登地域>

先進国で初めて世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」に代表される豊かな自然はもとより、和倉温泉や輪島温泉郷、食材から食器まで能登産にこだわったご当地グルメ「能登丼」に加え、輪島塗等の伝統工芸、ユネスコの無形文化遺産である「奥能登のあえのこと」、「青柏祭の曳山行事」、「能登のアマメハギ」や日本遺産の「キリコ祭り」に代表される祭り等、伝統文化が色濃く残り、日本の原風景とも言える地域となっている。

<金沢地域>

日本三名園の一つである「兼六園」や加賀百万石文化の象徴である「金沢城公園」をはじめ、その周辺に広がる武家屋敷跡、茶屋街、寺院群等の歴史的な町並み、本県の食文化の代表格である「加賀料理」など、藩政期から受け継がれる歴史や文化が数多く残る一方で、現代アートの美術館である「金沢21世紀美術館」やおもてなしの心を表した「金沢もてなしドーム」等、進取の気性に富んだ施設もあり、伝統と新しさが共存した魅力的な地域となっている。

<白山地域>

日本三名山の一つである霊峰「白山」を中心として豊かな自然が特徴の地域であり、また、全国三千余社の白山神社の総本宮である「白山比咩神社」、大自然の景観が楽しめる「白山白川郷ホワイトロード」や白山温泉郷、山の幸をふんだんに用いたご当地グルメ「白山百膳」等、白山の恵みをもたらす様々な魅力を感じられる地域となっている。

<加賀地域>

日本有数の温泉が集積した加賀温泉郷、溪谷美が堪能できる「鶴仙溪」や県内屈指の紅葉の名所である「那谷寺」、「九谷焼」や「山中漆器」に代表される伝統工芸、さらには日本遺産に認定された「北前船寄港地・船主集落」や「石の文化」、建機メーカー大手の(株)小松製作所やバス製造大手のジェイ・バス(株)等のものづくり企業の集積を活かした産業観光等、多様な観光資源を有する地域となっている。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】(R3.10時点)

ホテル150軒・収容人員29,197人、旅館221軒・収容人員26,031人ほか民宿等をあわせ県内では宿泊施設904軒・収容人員66,826人を有している。

(別添) 様式 1

地域別に見ると、能登地域では315軒・収容人員18,070人、金沢地域では408軒・収容人員27,734人、白山地域では55軒・収容人員2,553人、加賀地域では126軒・収容人員18,469人となっており、県内各地域で一定の施設数及び収容人員を確保しているところである。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

(1) 陸路

・ 鉄道については、平成27年3月の北陸新幹線金沢開業により、三大都市圏全と約2時間半で結ばれるようになり、利便性が大幅に向上している。また、道路については、新幹線開業に合わせて開通した能登地域と三大都市圏を結ぶ「能越自動車道七尾氷見道路」、県内を横断する北陸自動車道等の高規格幹線道路が充実していることに加え、平成27年度より料金が半額となった本県と岐阜県を結ぶ山岳観光道路である「白山白川郷ホワイトロード」も整備されている。

・ 域内交通については、鉄道については、JR（北陸本線・七尾線）、IRいしかわ鉄道、のと鉄道、北陸鉄道の各鉄道網が整備されている。道路については、平成25年3月末に無料化された金沢と能登を結ぶ「のと里山海道」等、南北に長い県土の一体化（時間距離短縮）を図る道路網が充実している。

(2) 空路

・ 小松空港については、国土交通省が認定する「訪日誘客支援空港」の一つに位置づけられており、国内定期路線4路線（羽田、札幌、福岡、那覇）に加え、国際定期路線が3路線（台北、上海、ソウル）就航している。また、のと里山空港については、羽田便に加え、台北からのチャーター便が運航されており、国内外から幅広く集客できる環境が整備されている。

(3) 海路

・ 金沢港は、国土交通省が指定する「日本海側拠点港（外航クルーズ）」の一つに位置づけられており、令和2年4月には、金沢港の新たな賑わいの拠点として「金沢港クルーズターミナル」がオープンした。

【外国人観光客への対応】

令和4年10月の新型コロナウイルスの水際対策の緩和により、個人の外国人旅行者の入国が解禁されるなど、インバウンドが再開しており、コロナ前水準の回復を図るため、これまで同様、本県の認知度の向上、戦略的な誘客の促進、受入環境の充実を柱として、施策を展開することとしている。

認知度の向上では、アジアや欧米豪をターゲットに、SNSや現地メディアを活用した観光魅力の発信やメディアの招へいなど、デジタルデータ等を活用しながら本県観光魅力を戦略的に発信することとしている。

また、戦略的な誘客の促進では、北陸新幹線沿線自治体等と連携して「新たなゴールデンルート」の定着を図るためのプロモーションを展開するほか、報奨旅行や教育旅行の誘致など、各国・地域のニーズに応じた誘客の取り組みに加え、国内ランドオペレーターの招へいを通じた高付加価値旅行者の誘客、欧米豪各国へのレップの配置、海外旅行会社の招へいなども行う。

さらに、受入環境の充実として、県内の観光事業者の意識の啓発を行うためのセミナーの開催や外国語観光ガイドの育成のほか、受け地の更なる魅力づくりのため、外国人向け観光素材の磨き上げに意欲のある観光事業者を対象とし、観光素材の造成・販売のための専門家の派遣、旅行会社の招へいなどを行う。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光入込客数	最も基本的な観光振興の指標とするため	宿泊施設や観光施設等を対象とした毎月のアンケート調査
観光動態調査	観光客の属性(年齢・性別、消費額、利用交通機関等)を把握するため	県内各エリアにおける主要観光地での定期的なアンケート調査
外国人観光動態調査	外国人旅行者の旅行実態(来県目的、きっかけ、要改善点等)を把握し、海外誘客強化につなげるため	外国人が多い主要観光地での定期的なアンケート調査
「お客様の声」調査	観光客の満足度、改善すべき点などを把握し、具体的な改善につなげるとともに、魅力ある旅行商品造成につなげるため	県内の宿泊・観光施設等約300カ所に設置したアンケートはがきやWEBサイトでのアンケート調査
WEBサイトのアクセス状況	訪問者の傾向分析(関心の高いコンテンツの把握等)を通して、効果的な施策立案に活用するため	石川県観光情報ホームページである「ほっと石川旅ねっと」へのアクセス情報
観光入込客数	最も基本的な観光振興の指標とするため	宿泊施設や観光施設等を対象とした毎月のアンケート調査

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

令和6年春に予定されている「北陸新幹線県内全線開業」は、「第二の開業」であり、単なる交通手段の一延伸に止まらず、南加賀地域をはじめとする石川県の隠された素晴らしい魅力を全国に改めて発信し、より一層の人を呼び込み、県内全域の振興を図る絶好の機会と捉えている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み(Strengths) ○伝統と創造に育まれた質の高い文化の土壌 ○充実した陸・海・空の交流基盤 ・北陸新幹線、小松空港、のと里山空港、金沢港等 ・「ダブルラダー輝きの美知」構想に基づく幹線道路網 ○豊かな観光資源(地域資源) ・日本三名園の一つ「兼六園」、世界農業遺産「能登の里山里海」、日本三名山の一つ霊峰「白山」等 ・ユネスコの無形文化遺産や日本遺産に認定された県内各地の有形無形の文化財や加賀百万石時代から培われた風土(伝統工芸、伝統芸能、食文化など) ・ブランド農林水産物	弱み(Weaknesses) ○冬期の観光客数の落ち込み ○二次交通の不足 ○観光産業における人手不足
外部環境	機会(Opportunity) ○北陸新幹線県内全線開業 ○国民文化祭「いしかわ百万石文化祭 2023」の開催	脅威(Threat) ○地域間競争の激化 ○人口減に伴う国内旅行者の減少 ○コロナ禍での旅行ニーズの多様化

(3) ターゲット

○第1ターゲット層

三大都市圏(首都圏・関西圏・中京圏)及び東北エリアの中高年齢層

○選定の理由

- ・首都圏、関西圏、中京圏の三大都市圏(※)からの観光入り込み客数については、H27の北陸新幹線の金沢開業以降(新型コロナウイルスが感染拡大したR2以降除く)、「統計からみた石川県の観光」(石川県作成)によると、年間約900万人前後となっており、全体の3割を超えるシェアを有することから、三大都市圏を重点ターゲットとして設定している。

※首都圏：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県

関西圏：大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県

中京圏：愛知県、岐阜県、静岡県、三重県

- ・また、北陸新幹線金沢開業(H27.3)により、仙台や福島からの時間距離が5時間から3時間半に短縮されたことで、東北からの入り込みがコロナ前の令和元年は平成26年と比較して約1.7倍と大幅に伸びていることから、東北エリアを重点ターゲットとして位置づけている。
- ・特に、年齢層については、本県の観光魅力の大きな要素である歴史や伝統文化といった「本物の魅力」を理解し、魅力として感じやすい中高年齢層をメインターゲットとするほか、コロナ禍でも旅行意欲が高い若年層をターゲットとする。

○取組方針

①新たな魅力づくりと満足度向上による石川ファンの拡大

- ・「旅行ニーズの多様化に対応した観光魅力の発掘・磨き上げ、旅行商品化の促進」
「いしかわ旅行商品プロモーション会議」の開催等を通じ、観光客の旅行ニーズに対応した本県ならではの体験観光プログラムや周遊型旅行の開発・商品化を促進する。
- ・「観光地の活性化とまちづくりの推進」
県内それぞれの地域が一体となった魅力的な観光素材づくりや誘客イベントの開催等、受け地の観光魅力づくりを推進する。

②石川ファンの拡大を図るためのおもてなしの向上

- ・「事業者・県民のおもてなし向上」
観光関連事業者や県民が「おもてなし」の心を持って観光客を迎えるため、研修会を開催し、スキルや意識の向上を図る。また、観光客からの意見をおもてなしの向上に繋げる取り組みを通じ、満足度向上を図るとともに、旅行者ニーズを分析し新たな観光サービスの提供に活用する。
- ・「観光案内所等の機能・サービスの充実」
観光客のニーズに応じた観光案内機能やサービスを充実させ、利便性の向上に努める。

③石川ならではの魅力の発信

- ・「認知度向上のための効果的な情報発信」
首都圏では、JRや隣県と共同で実施するキャンペーンの展開や、大規模イベント等への出展、JRや大手私鉄と連携したPR、アンテナショップ「いしかわ百万石物語・江戸本店」を活用したPRなどにより、首都圏における更なる認知度向上を図るとともに、関西・中京圏では、JRや大手私鉄と連携したPRに加え、自家用車での来県者が多いことを踏まえ、JAF等の自動車関連事業者と連携したPRにも取り組み、三大都市圏からの一層の誘客拡大を図る。
また、東北エリアでは、地元情報誌を活用した情報発信や百貨店等でのPRを通じ、北陸新幹線による時短効果や旅先としての本県の認知度向上に取り組み、東北からの誘客拡大を目指す。
- ・「旅行ニーズの多様化に対応したきめ細やかな情報発信」
総合パンフレット「ほっと石川まるごと観光マップ」や観光情報ホームページ「ほっと石川旅ねっと」、大手旅行予約サイトやSNSを活用し、本県の観光魅力を発信する。また、初日訪問者向けガイドブック「ちょっと石川」、リピーター向けガイドブック「もっと石川」により、観光客のニーズや嗜好に応じた効果的な情報発信を図る。

④観光振興を担う人材の育成

本県の観光産業を将来にわたって活力ある基幹産業として飛躍・発展させるため、「いしかわ観光創造塾」の開催を通じ、地域の新たな観光ビジネスを創出できる「企画力」や「実行力」を備えた人材を育成する。

(別添) 様式 1

<p>○ターゲット層 東アジア、東南アジア、欧米豪</p>
<p>○選定の理由</p> <ul style="list-style-type: none">・東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、世界経済フォーラム(WEF)「2021年旅行・観光開発指数レポート」において日本が一位となるなど、海外の人々の日本への関心が高まっていること、また、令和4年10月には水際対策の緩和によるインバウンドの再開により、日本への旅行需要は比較的早く回復するものと期待されている。・石川県においても、日本への旅行需要を最大限取り込むため、上記のとおり訪日意欲が高く、本県の外国人延べ宿泊者数調査においてもこれまで順調に推移してきた市場(※新型コロナウイルス感染拡大前)をターゲット層(重点市場)とする。 <ol style="list-style-type: none">①本県の入り込みの中核を担ってきた(全体の5割)東アジア:台湾、香港、中国、韓国②今後の訪日旅行市場の拡大が期待できる東南アジア:タイ、シンガポールなど③本県が有する歴史的文化的な観光資源への関心が高い欧米豪:英・仏・米・豪など
<p>○取組方針</p> <ol style="list-style-type: none">①北陸新幹線県内全線開業と大阪・関西万博を見据えた本県の認知度向上<ul style="list-style-type: none">・「海外に向けた積極的なPR」 SNS や国内外のメディアを通じた情報発信を通じ、本県の更なる認知度向上を図る。・「多言語情報発信ツールの充実」 多言語によるホームページ・パンフレットの充実や、映像コンテンツ等の効果的な活用を図り、本県の観光魅力を発信する。②北陸新幹線県内全線開業と大阪・関西万博を活かした誘客の促進<ul style="list-style-type: none">・「年間を通じた誘客の底上げ」 北陸新幹線を利用した「新たなゴールデンルート」の定着を図るとともに、JR等が販売する北陸への広域周遊パスを活用したアジアからの個人客の誘致、国内ランドオペレーター等を活用した高付加価値旅行者の誘客を図る。・「誘客時期の分散」(冬場の閑散期対策) 信州を訪れるオーストラリアからのアフタースキー観光の需要の取り込みを図るとともに、12月に学校休暇と社会人の有給休暇取得時期が重なり、海外旅行のピークを迎える東南アジアからの誘客強化を図る。・「誘客地域の分散」 海外の旅行会社に対する加賀や能登のPR強化を図るとともに、海外メディアの積極的な活用を図るほか、二次交通の代替手段としてレンタカーの活用を促す。③外国人受け入れ環境の充実<ul style="list-style-type: none">・「観光コンテンツの充実」 外国人の多様なニーズに対応する観光コンテンツの造成・充実を図るとともに、市場に応じた情報発信体制整備を支援し、外国人旅行者の誘客拡大(消費拡大・長期滞在)と県内周遊の促進を図る。・「外国人受入環境の充実」 観光事業者に対するインバウンドセミナーや研究会などの開催を通じ、公衆無線LANの整備やキャッシュレス決済の導入、飲食店における多言語メニューの普及、免税店登録、観光案内所の拡充など、外国人の受入環境の充実を図る。

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	ほっと石川
②コンセプトの考え方	<p>観光の原点は、地域の美しい景観や食、おもてなしの心等、その地域の住民が誇りとする「光(観光資源)」によって観光客をもてなし、感動を与えることにある。</p> <p>南北に長く日本海に突き出た能登半島を有する本県には、風光明媚な海岸線に加え、日本三名山の一つ霊峰「白山」、「能登の里山里海」に代表される豊かな自然、新鮮な山や海の幸、湯量豊富な温泉、長年にわたって育まれた伝統文化や質の高い芸術に触れられる施設の集積、心温まる人々のおもてなし等、住む人が誇りとする「光」が多くあり、本物や体験、癒しを求める近年の観光客のニーズにも合致しているとともに、本県の優位性・独自性となっている。</p> <p>コンセプトである「ほっと石川」のキャッチフレーズには、石川の活力と熱い気持ち、温泉の暖かさ、温もりある出会いとおもてなしの心、ほっとするひととき、くつろぎとやすらぎの石川といったメッセージが込められており、県民生活との調和を図りつつ、石川ならではの個性を活かした質の高い観光地づくりを進め、観光客の満足度を高めることにより、石川に愛着を持ち、繰り返し訪れる「石川ファン」の拡大を目指す。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	<p>理事会・各種委員会</p> <p>観光関係事業者を中心に多くの関係者が会員として参画している法人であるとともに、意思決定機関である理事会(年3回程度)について、行政や観光団体、旅行会社、宿泊、交通、物産等多様な関係者で構成されている。</p> <p>さらに、観光関係事業者が参画する事業推進委員会(年1回)や県内3地域で行う地域委員会(年1回)等で定期的に情報交換することで、多様な関係者との戦略の共有及びそれらの有機的な連携を図っている。</p>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<p>平成26年11月に開始した、観光客の意見を収集する調査事業を引き続き実施し、観光客からの改善を求める意見については、対象施設に伝え、改善を求めるとともに、対応についてもあわせて報告していただくことで実効力を担保する。加えて、いただいた意見全体とその対応策も含めて定期的に観光関係団体と共有し、県全体のおもてなし力の向上を図る。</p>
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<p>県内各観光関係団体から観光情報を集約し、総合的な観光情報発信サイト「ほっと石川旅ねっと」において、個人や団体等の旅行者ニーズに合わせてきめ細かく対応しているほか、県内外でのイベント等を活用しながら、一元的にプロモーションを行っている。</p>

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

指標項目		2019 (R1) 年	2020 (R2) 年	2021 (R3) 年	2022 (R4) 年	2023 (R5) 年	2024 (R6) 年
●旅行消費額 (百万円)	目標	3,366 ()	3,454 ()	3,544 ()	3,636 ()	3,731 ()	3,829 ()
	実績	3,184 ()	1,741 ()	1,560 ()	()	()	()
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	917 ()	937 ()	949 ()	962 ()	974 ()	987 ()
	実績	818 ()	456 ()	386 ()	()	()	()
●来訪者満足度 (%)	目標	85.0 ()	85.0 ()	85.0 ()	85.0 ()	85.0 ()	85.0 ()
	実績	86.2 ()	86.6 ()	90.1 ()	()	()	()
●リピーター率 (%)	目標	75.2 ()	76.2 ()	77.2 ()	78.2 ()	79.2 ()	80.2 ()
	実績	66.6 ()	69.8 ()	74.7 ()	()	()	()

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

2016年3月に県が策定した「ほっと石川観光プラン 2016」において、2025年を目標年次とした各種数値の目標値を設定しており、同目標数値等を踏まえ、必須KPIを設定した。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

「ほっと石川観光プラン 2016」の目標数値:3,929億円(目標年次:2025年)を達成するために必要な増加率をもとに設定。

●延べ宿泊者数

「ほっと石川観光プラン 2016」の観光入り込み客数(全国)目標数値:3,000万人(目標年次:2025年)に対して、過去実績より宿泊者数は入り込み全体の3割程度であることを踏まえ、宿泊者数の目標数値を1,000万人(目標年次:同上)と設定し、それを達成するために必要な増加率をもとに設定。

●来訪者満足度

県観光連盟実施の「お客様の声を活かすおもてなし向上事業」(県内の観光施設等約300箇所にアンケートハガキを設置して、観光客からの意見を収集)における観光客の満足度に関する5段階評価のうち、上位2つの「満足」及び「やや満足」の合計値を採用。2016年が84.6%と高い評価を頂いているため、この水準を維持することを目標とし、85.0%を今後の目標値として設定。

●リピーター率

「石川県観光動態調査」において、石川県への来訪回数が「2回目」以上と回答した観光客の割合を採用。毎年1ポイントの増加を目標として設定。

(2) その他の目標

指標項目		2019 (R1) 年	2020 (R2) 年	2021 (R3) 年	2022 (R4) 年	2023 (R5) 年	2024 (R6) 年
●観光入り込み客数 (万人)	目標	2,490 ()	2,810 ()	2,847 ()	2,885 ()	2,923 ()	2,961 ()
	実績	2,490 ()	1,325 ()	1,231 ()	()	()	()
●三大都市圏観光 入り込み客数 (万人)	目標	1,018 ()	1,061 ()	1,105 ()	1,150 ()	1,198 ()	1,248 ()
	実績	880 ()	467 ()	430 ()	()	()	()
●首都圏観光入り 込み客数 (万人)	目標	503 ()	532 ()	562 ()	594 ()	627 ()	663 ()
	実績	413 ()	216 ()	197 ()	()	()	()
●外国人宿泊者数 (万人)	目標	69 (69)	73 (73)	78 (78)	83 (83)	88 (88)	94 (94)
	実績	77 (77)	10 (10)	0.8 (0.8)	()	()	()

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

「ほっと石川観光プラン 2016」において目標数値(目標年次:2025年)を設定している項目について、その他の目標として設定した。

【設定にあたっての考え方】

●観光入り込み客数

「ほっと石川観光プラン 2016」の目標数値:3,000万人(目標年次:2025年)を達成するために必要な増加率をもとに設定。

●三大都市圏観光入り込み客数

「ほっと石川観光プラン 2016」の目標数値:1,300万人(目標年次:2025年)を達成するために必要な増加率をもとに設定。

(参考)三大都市圏とは、下記都市圏の都道府県を指す。

首都圏:東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県

関西圏:大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県

中京圏:愛知県、岐阜県、静岡県、三重県

●首都圏観光入り込み客数

「ほっと石川観光プラン 2016」の目標数値:700万人(目標年次:2025年)を達成するために必要な増加率をもとに設定。

●外国人宿泊者数

「ほっと石川観光プラン 2016」の目標数値:100万人(目標年次:2025年)を達成するために必要な増加率をもとに設定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に(1)収入、(2)支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳
2019(R1) 年度	531,799,437円	特定資産運用益 159,780,821円 受取会費 14,394,000円 事業収益 76,251,872円 受取補助金 230,440,101円 受取負担金 48,705,100円 雑収益等 2,227,543円
2020(R2) 年度	483,988,095円	特定資産運用益 160,000,000円 受取会費 7,129,500円 事業収益 143,177,547円 受取補助金 141,178,430円 受取負担金 30,303,170円 雑収益等 2,199,448円
2021(R3) 年度	505,459,384円	特定資産運用益 160,000,000円 受取会費 7,077,000円 事業収益 143,584,603円 受取補助金 162,129,461円 受取負担金 30,847,100円 雑収益等 1,821,220円
2022(R4) 年度	534,327,000円	特定資産運用益 159,809,000円 受取会費 14,124,000円 事業収益 150,478,000円 受取補助金 160,412,000円 受取負担金 47,830,000円 雑収益等 1,674,000円
2023(R5) 年度	534,327,000円	特定資産運用益 159,809,000円 受取会費 14,124,000円 事業収益 150,478,000円 受取補助金 160,412,000円 受取負担金 47,830,000円 雑収益等 1,674,000円
2024(R6) 年度	534,327,000円	特定資産運用益 159,809,000円 受取会費 14,124,000円 事業収益 150,478,000円 受取補助金 160,412,000円 受取負担金 47,830,000円 雑収益等 1,674,000円

(2) 支出

年度	総支出	内訳
2019(R1) 年度	467,078,968円	観光振興事業 149,296,460円 観光キャンペーン事業 268,109,922円 海外誘客促進事業 38,902,810円 収益事業 1,577,243円 管理費等 9,192,533円

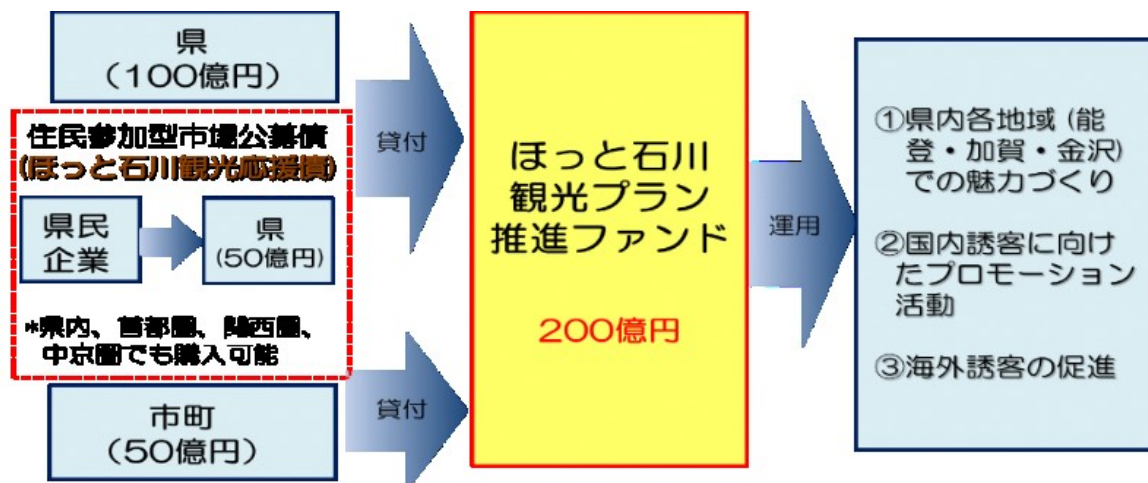
(別添) 様式 1

年度	総支出	内訳
2020 (R 2) 年度	370,305,331 円	観光振興事業 196,999,754 円 観光キャンペーン事業 151,165,955 円 海外誘客促進事業 14,651,564 円 収益事業 1,067,253 円 管理費等 6,420,805 円
2021 (R 3) 年度	428,734,772 円	観光振興事業 209,146,851 円 観光キャンペーン事業 178,481,335 円 海外誘客促進事業 22,742,081 円 収益事業 3,350,449 円 管理費等 15,014,056 円
2022 (R 4) 年度	509,790,000 円	観光振興事業 224,015,000 円 観光キャンペーン事業 245,368,000 円 海外誘客促進事業 11,000,000 円 収益事業 998,000 円 管理費等 28,409,000 円
2023 (R 5) 年度	509,790,000 円	観光振興事業 224,015,000 円 観光キャンペーン事業 245,368,000 円 海外誘客促進事業 11,000,000 円 収益事業 998,000 円 管理費等 28,409,000 円
2024 (R 6) 年度	509,790,000 円	観光振興事業 224,015,000 円 観光キャンペーン事業 245,368,000 円 海外誘客促進事業 11,000,000 円 収益事業 998,000 円 管理費等 28,409,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・多様な財源確保に向けて、県に対する財政支援を要望。
- ・安定的な財源として、「ほっと石川観光プラン推進ファンド」(平成28年9月創設。令和3年10月に5年間の延長。)を当連盟に設置し、その運用益を最大限活用。
- ・自己財源(会費収入)の確保を図るため、マーケティングで得られた情報の会員への提供や着地型旅行商品造成支援度等、会員のメリットを強化し、新規会員の獲得に取り組む。
- ・収益事業の多角化について、検討を進める。

(参考) ほっと石川観光プラン推進ファンドスキーム



8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

石川県は、公益社団法人石川県観光連盟を石川県における地域連携DMOとして登録したいので、公益社団法人石川県観光連盟とともに申請します。

9. マーケティング・マネジメント対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

県内の地域DMOは主に観光素材の発掘・磨き上げを担い、当連盟は大都市圏へのプロモーションやインバウンド誘客など、全県単位での実施が効果的な施策を担っている。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	宮本 達矢
担当部署名（役職）	事務局次長
郵便番号	920-8580
所在地	石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話番号（直通）	076(225)1619
FAX番号	076(225)1129
E-mail	t-miya@pref.ishikawa.lg.jp

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	石川県
担当者氏名	岡本 憲司
担当部署名（役職）	石川県観光戦略推進部観光企画課企画推進GL
郵便番号	920-8580
所在地	石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話番号（直通）	076(225)1127
FAX番号	076(225)1129
E-mail	kenji-o@pref.ishikawa.lg.jp

【区域】石川県全域

【設立日】平成元年6月14日

【登録日】平成31年3月29日

【代表者】庄田 正一

【マーケティング責任者(CMO)】米谷 慎吾

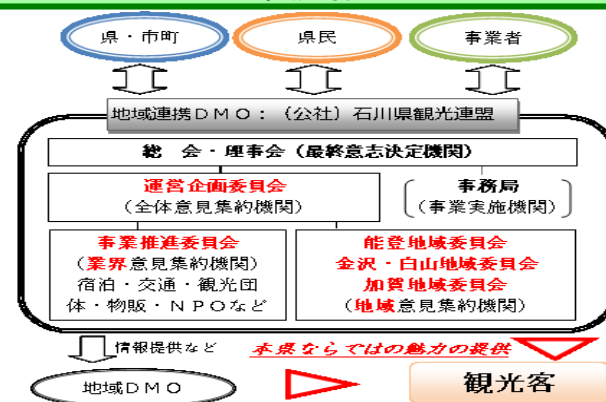
【財務責任者(CFO)】宮本 達矢

【職員数】49人(うち出向等36人)

【連携する主な事業者】

県内の観光協会・物産協会、温泉旅館協同組合、金沢ホテル懇話会、(一社)能登半島広域観光協会、全日本空輸(株)、日本航空(株)、西日本旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、IRいしかわ鉄道(株)、のと鉄道(株)、北陸鉄道(株)、中日本高速道路(株)等

実施体制



マーケティング・マネジメントする区域

石川県全域
→11市8町からなる計19市町
県庁所在地:金沢市



合意形成の仕組み

【該当する登録要件】①

【概要】

・会員には、県や市町、観光団体、民間事業者等地域の多様な関係者を有し、さらに、能登、金沢・白山、加賀の各地域ごとに地域委員会(年1回)を設けて、地域の意見を集約するとともに、事業推進委員会(年1回)を設けて、行政や観光関連団体等、業界の意見を集約している。

・これらの委員会での意見を運営企画委員会(年1回)で集約し、それを踏まえ、理事会や総会において、法人としての意志決定を行っており、地域、業界の意見が本連盟の意思決定に関わる仕組みが機能している。

戦略

【主なターゲット】

三大都市圏(首都圏・関西圏・中京圏)及び東北エリア

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ・新たな魅力づくりと満足度向上による石川ファンの拡大
- ・石川ファンの拡大を図るためのおもてなし向上
- ・石川ならではの魅力の発信
- ・観光振興を担う人材の育成

観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

・観光関係事業者を中心に多くの関係者が会員として参画している法人であるとともに、意思決定機関である理事会(年3回程度)について、行政や観光団体、旅行会社、宿泊、交通、物産等多様な関係者で構成されている。

・さらに、観光関係事業者が参画する事業推進委員会(年1回)や県内3地域で行う地域委員会(年1回)等で定期的に情報交換することで、多様な関係者との戦略の共有及びそれらの有機的な連携を図っている。

KPI(実績・目標)

指標項目		2019	2020	2021	2022	2023	2024
		(R1) 年	(R2) 年	(R3) 年	(R4) 年	(R5) 年	(R6) 年
旅行消費額 (百万円)	目標	3,366	3,454	3,544	3,636	3,731	3,829
	実績	3,184	1,741	1,560			
延べ宿泊者数 (千人)	目標	917	937	949	962	974	987
	実績	818	456	386			
来訪者満足度 (%)	目標	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
	実績	86.2	86.6	90.1			
リピーター率 (%)	目標	75.2	76.2	77.2	78.2	79.2	80.2
	実績	66.6	69.8	74.7			

※いずれも訪日外国人旅行者のみの数値は把握していない

法人のこれまでの活動実績

【情報発信・プロモーション】

・観光情報発信サイト「ほっと石川」を通した一元的なプロモーションの実施

【観光資源の磨き上げ】

・いしかわ旅行商品プロモーション会議の開催

【受入環境の整備】

・電話通訳サービスの実証実験

活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

【主な収入】特定資産運用益 160百万円

【総支出】429百万円(一般管理費15百万円、事業費414百万円)
※R4年3月期決算

【自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】
安定的な財源として、「ほっと石川観光プラン推進ファンド」(200億円)を運用し、その運用益を活用して事業を実施。